

337

125

小諸城全圖

寛永年間領内
各村石高及沿岸
小山政道



始

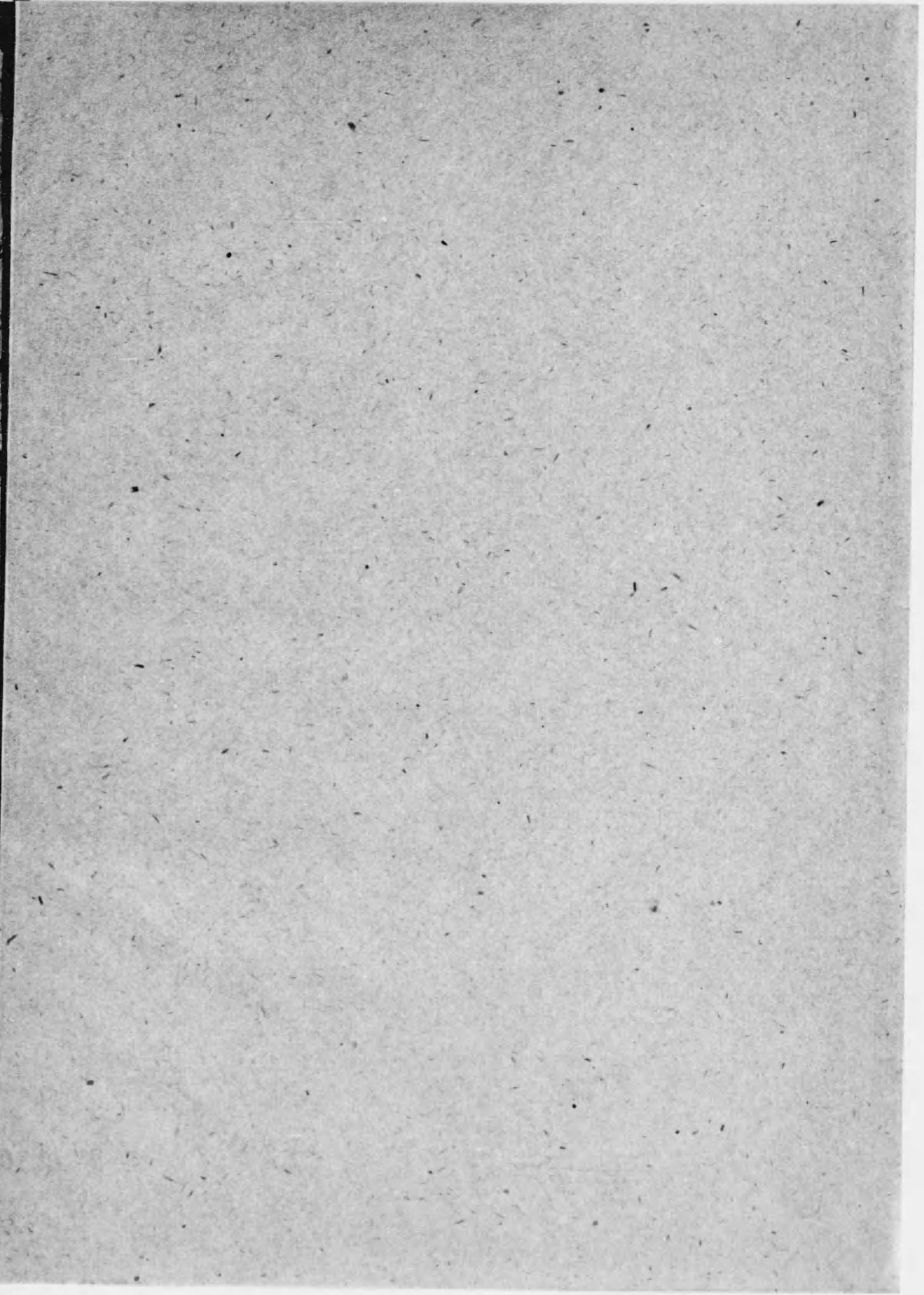
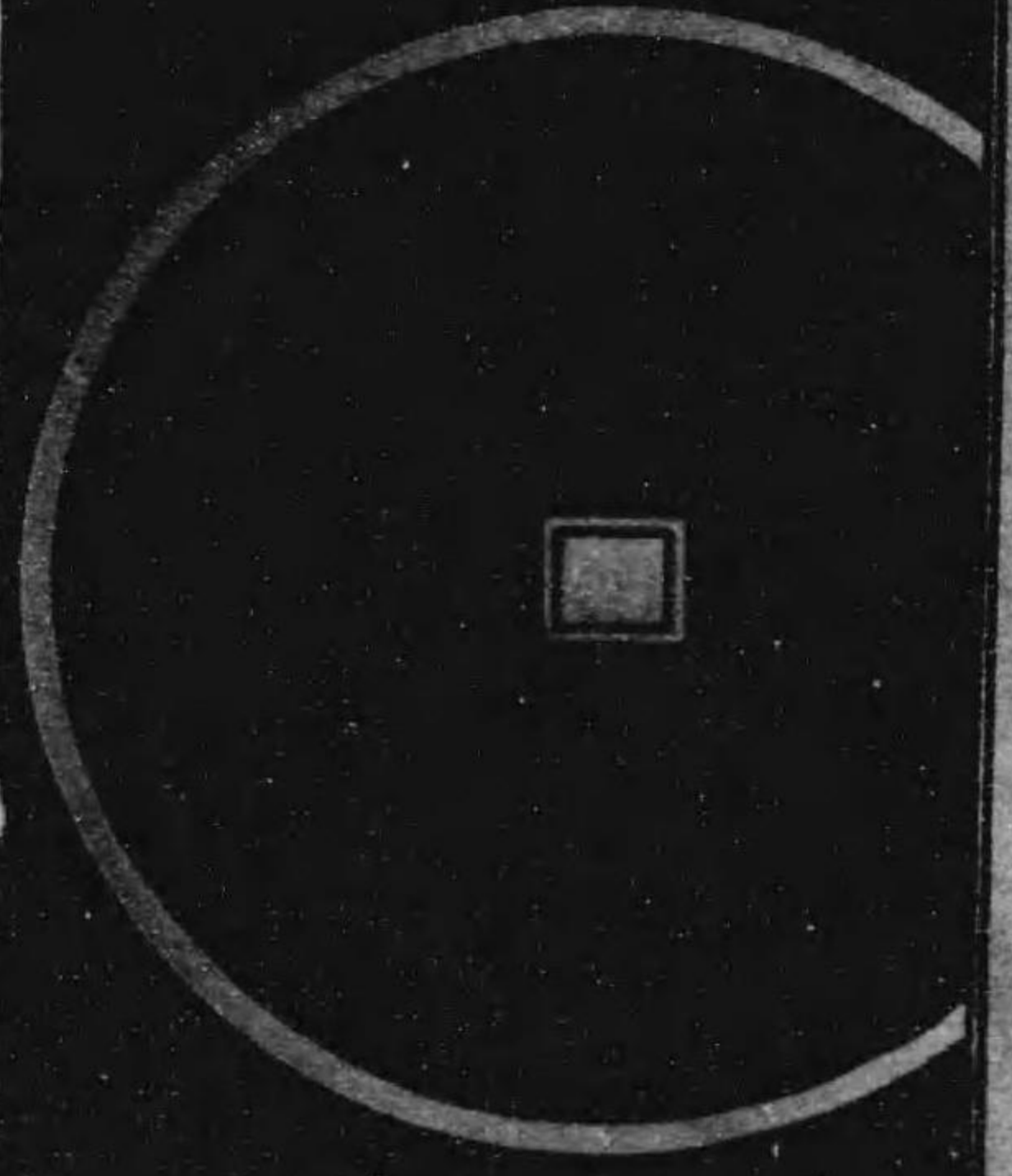
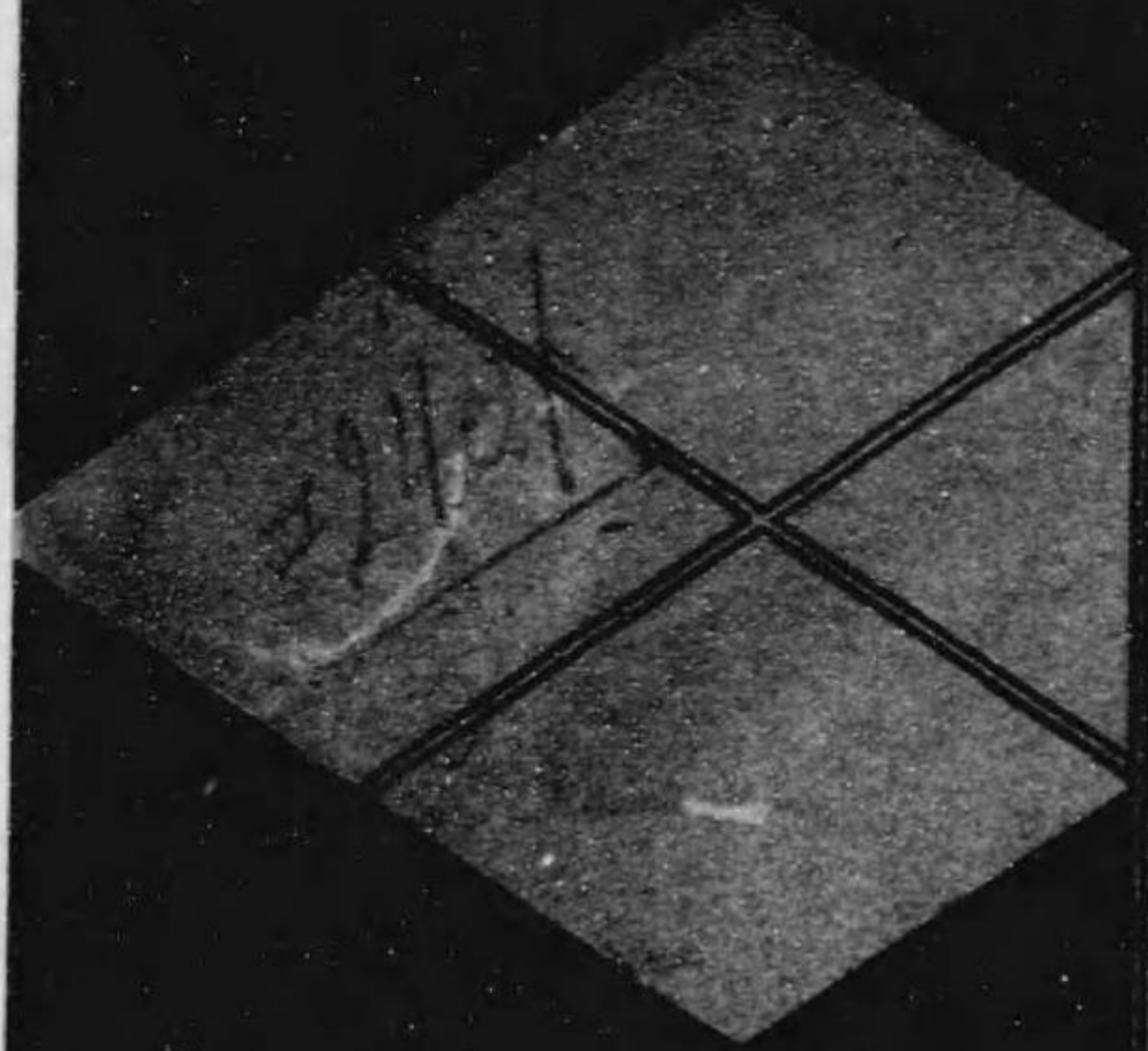
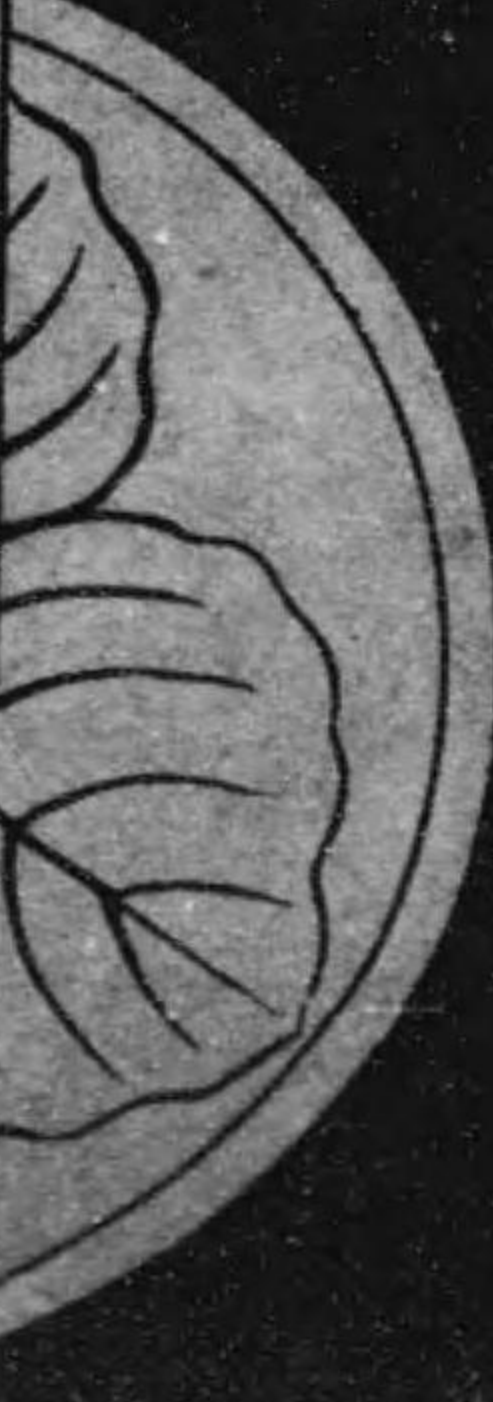
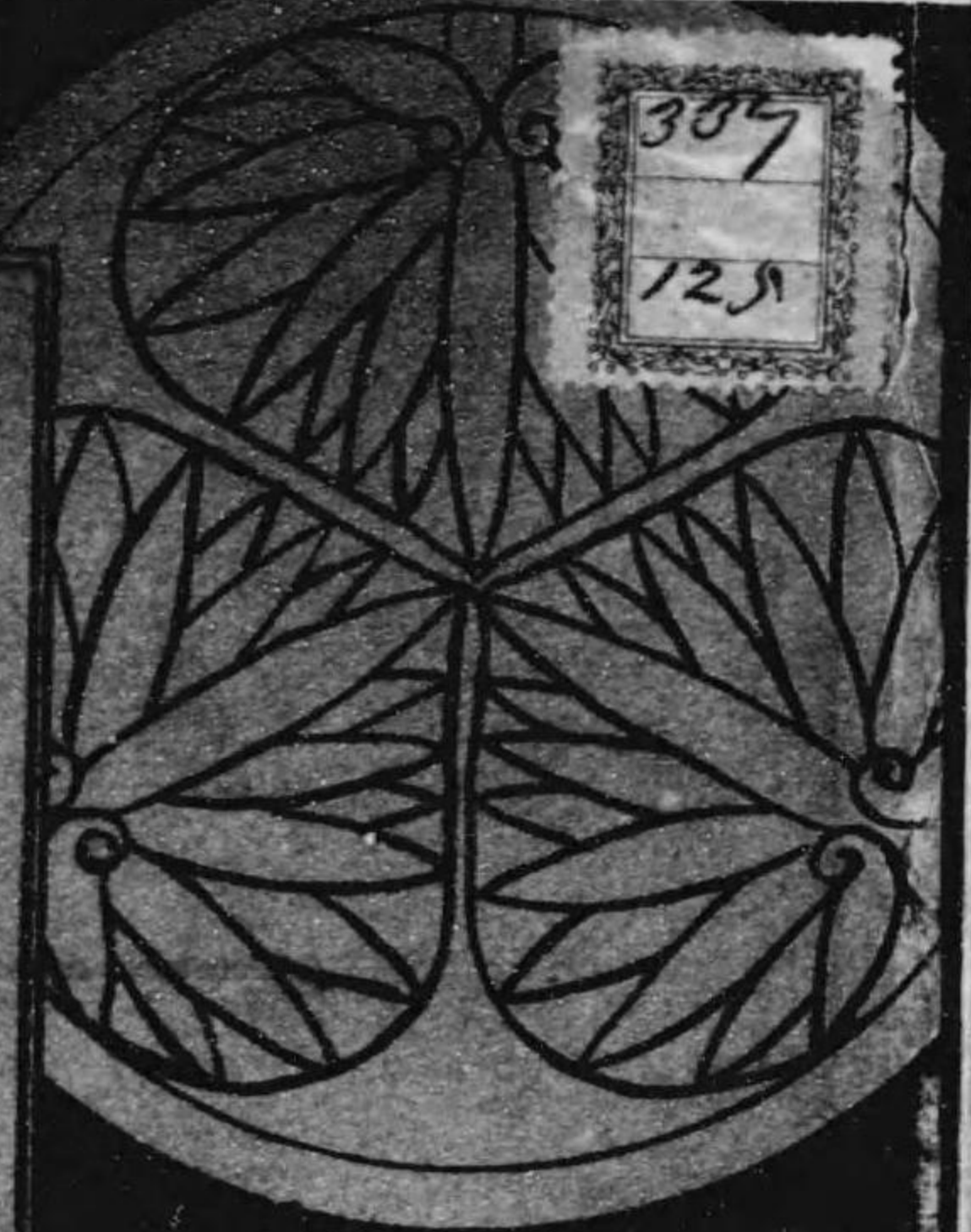


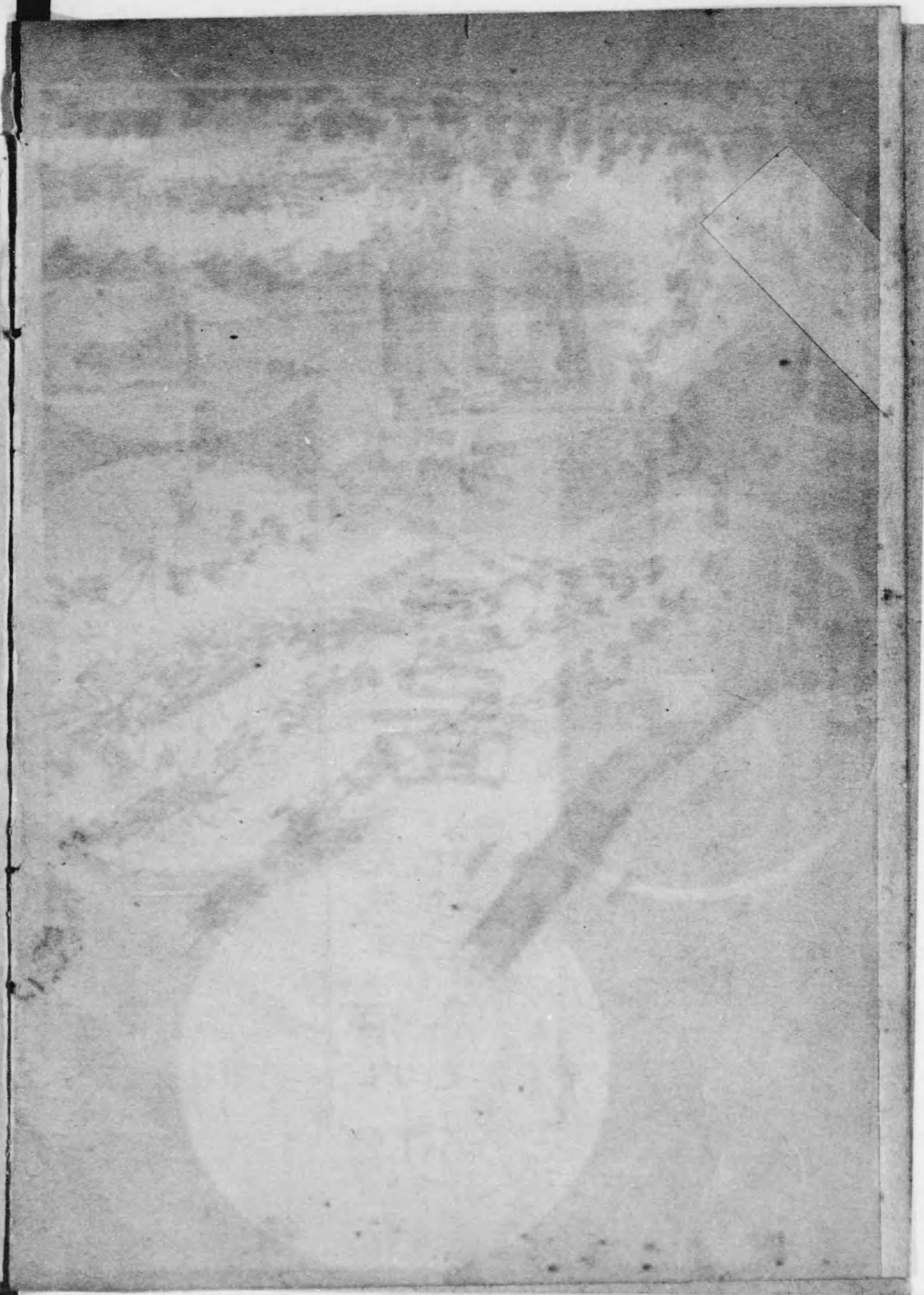
95.12.19

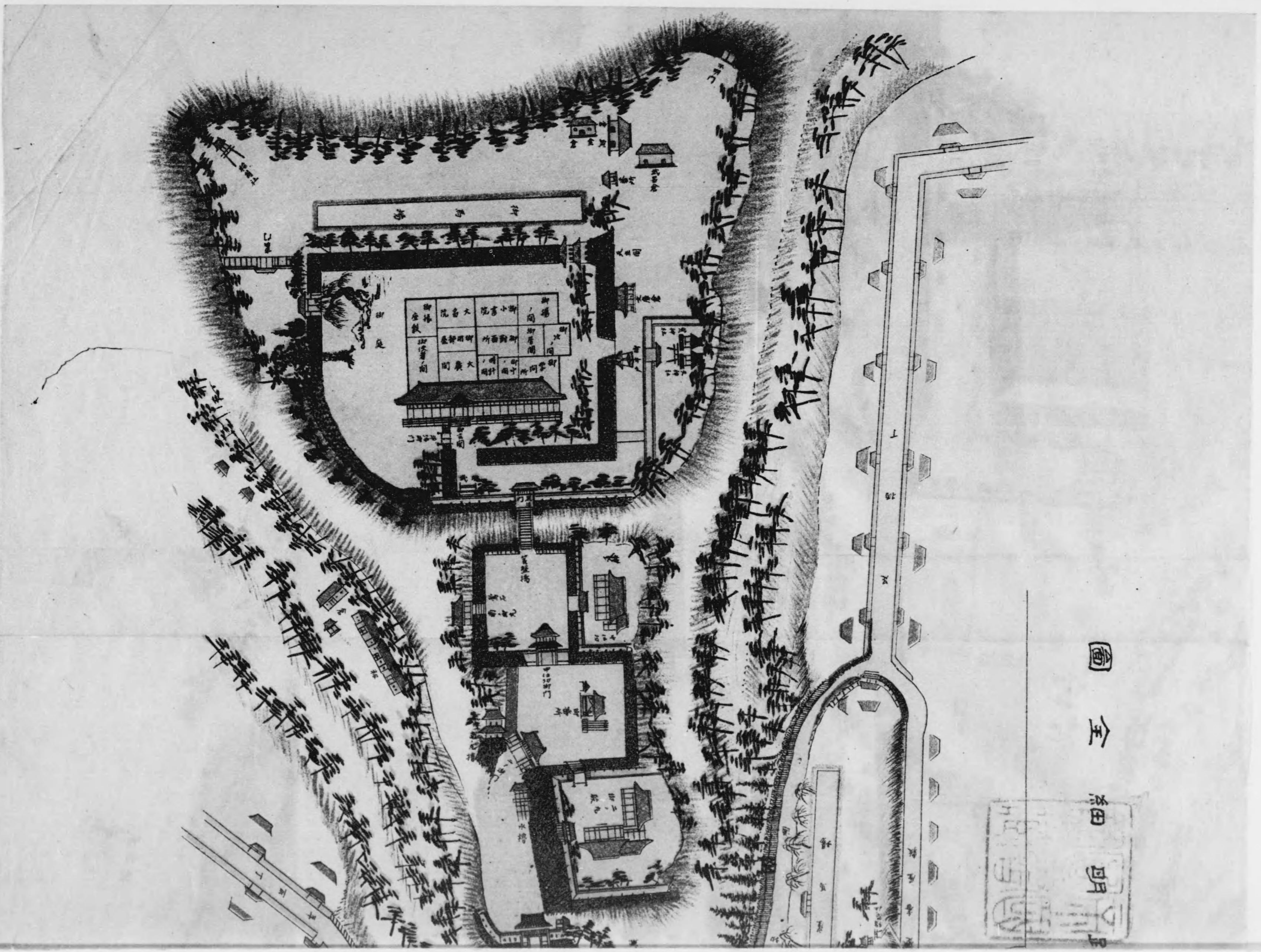
307
129

小諸城全圖

寛永年間領内
各村石高及
沿革







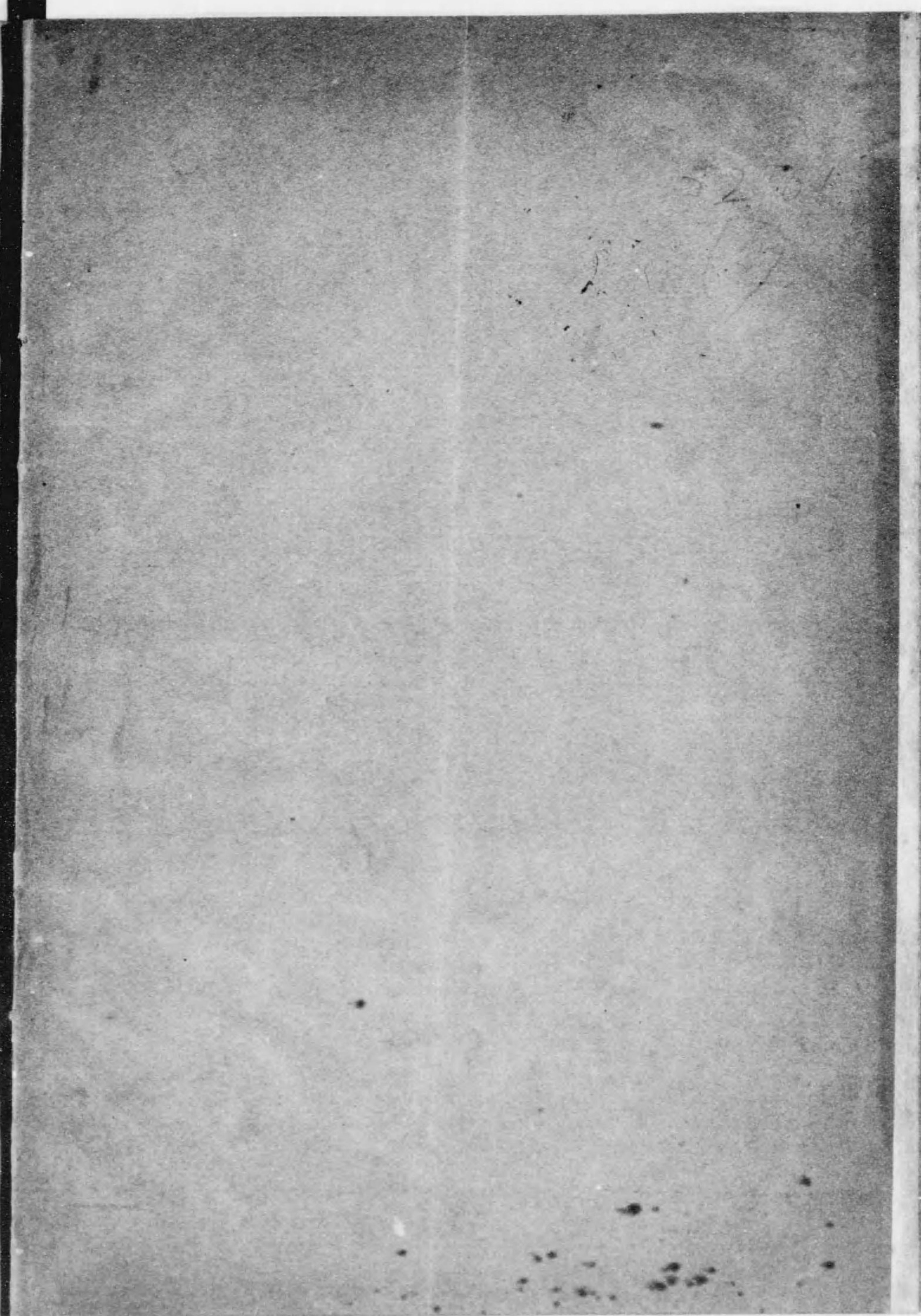
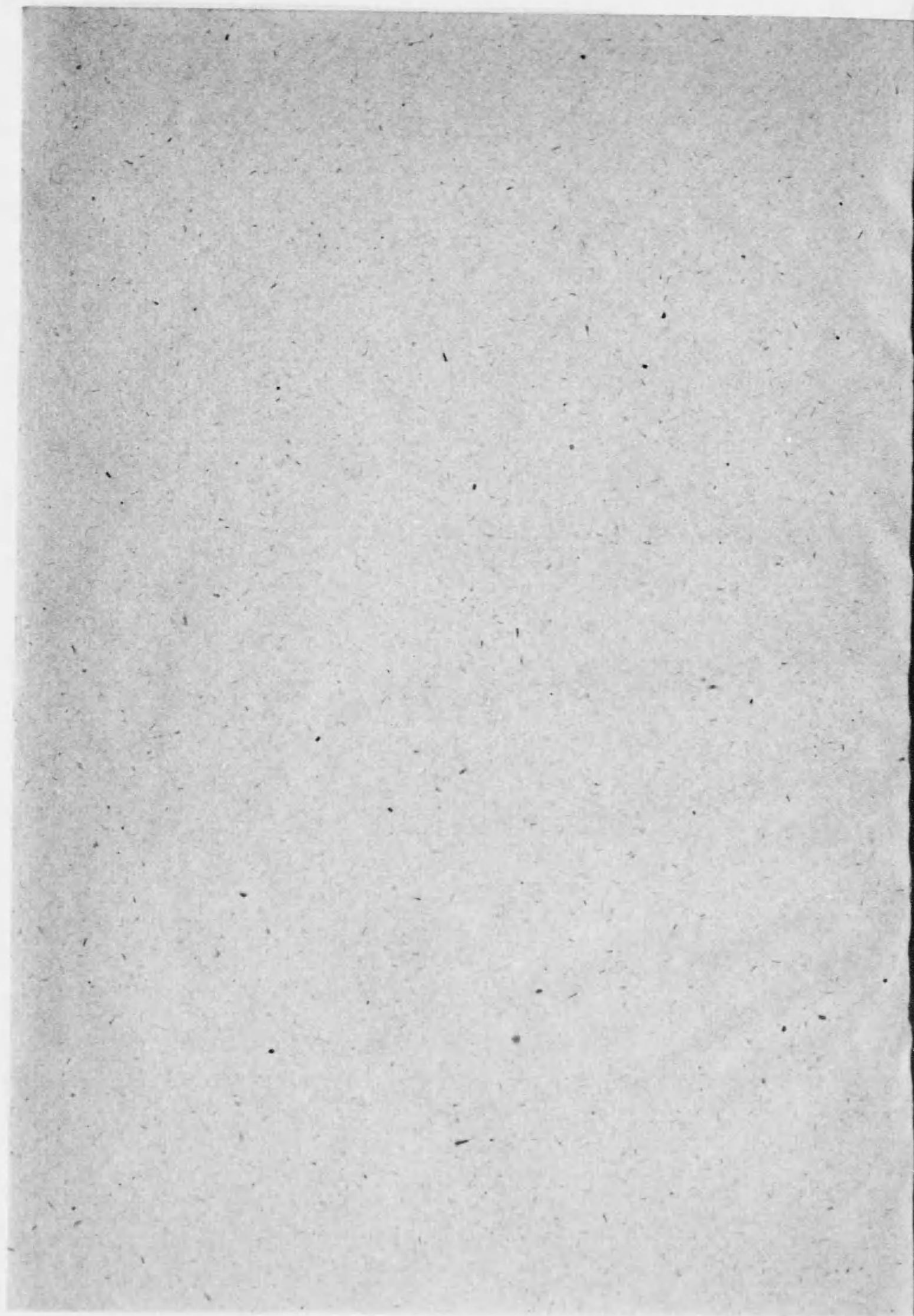
圖全細明



小諸城の沿革

小諸城は一に乙女城と云ひ又白鶴城とも稱ぶ。長享元年大井光忠鍋蓋郭に城きて之に居り。其子光爲更に乙女坂に城く、即ち今の二之丸臺なり。天文年中武田氏の所有に歸し、山本晴幸、馬場信房其地を相して方圖を改め、飯富虎昌、小山田昌行、高坂昌信の諸將之を衛る、弘治二年武田信豊之に居り、武田氏滅びて、織田氏の將龍川一益の管する所と爲り、道家正榮之を衛る。織田氏亡びて後、徳川氏の勢力範圍に入り、依田信蕃、康國、康勝父子三世之を領したり。天正十八年豊臣秀吉之を仙石秀久に與ひ、其子忠政、元和八年上田に徙り、徳川忠長之を領し、矢代越中、三枝土佐をして代り守らしむ。寛永元年以後は屢城主を易へ、松平憲良、青山宗俊、酒井忠能、西尾忠成、石川乘政、乘紀、之に居り、元禄十五年更に之を、牧野康重に賜ひ、康周、康満、康陞、康傳、康長、康明、康命、康哉、康民に傳へ、明治二年版籍を奉還して、廢墟と爲る。長享の築城より茲に至る實に三百八十三年あり。爾末小諸藩藩士の所有に歸し、明治十三年四月之に修理を、加へて懷古園と名け、以て登覽遊眺の便を得せしめ、四十二年土地所有の權を懷古神社に移し、更に規模を擴張せり。





337
125

終

